

基本施策評価シート

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号 10
 基本施策 共に支え合う地域福祉の推進
 構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	保健・医療・福祉ネットワークの連携強化	A
施策2	見守り体制の整備	B
施策3	ボランティアの育成	B

成果指標

指標	内容	令和2年度 目標	令和2年度末 実績	単位	令和2年度の成果の検証
自立相談支援センター相談件数	自立相談支援センターで受付けた年間相談件数	60	60	件	家計相談や就労準備支援など、関係機関と連携した対応により、生活困窮者を支援することができた。 また、継続支援となった相談者への支援を強化し、解決に結びつけることができた。 新型コロナウイルスが経済に及ぼす影響から、失業や休業などにより生活困窮に至った人に対し、家計改善や就労などの支援を行った。
ボランティア派遣者数	ボランティアの年間派遣者数	120	34	人	ボランティアセンターでのPR活動や、ボランティア講座の開催などにより、ボランティア活動への理解促進を図った。 新型コロナウイルスの影響により、新規のボランティア登録件数や、ボランティアの派遣件数が例年より少なかった。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・少子・高齢化に加え、市民の生活形態や意識の変化などにより支援が必要な人が増加し、市民ニーズも複雑化・多様化している。 ・民生委員・児童委員や福祉委員などの地域福祉の担い手が不足する傾向にあり、民間事業者の協力を得て見守り活動を実施している。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・結とぴあを中心とした各部門の連携と相互調整による切れ目のない公的サービスの提供に、地域での助け合いやボランティア活動による共助を併せ、効果的に支えていく連携の仕組みづくりの推進 ・生活困窮者等の自立支援への包括的な相談支援体制の構築

社会情勢・市民ニーズの変化

・国において、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超え、地域住民などが地域の課題を「我が事」として共に支え合い、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながり、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を共につくっていく「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが進められている。
 ・経済的困窮や社会的孤立など、さまざまな生活課題を抱え、支援を必要とする人が増加している。

現在の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・結とぴあを中心に、関係部署、関係機関や団体、民生委員・児童委員などが連携し、支援が必要な人に対する相談支援を推進している。 ・民生委員・児童委員や福祉委員などの担い手が不足しているが、区長や民生委員児童委員協議会などとの連携や協力により、人材確保に努めている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動の担い手を発掘、養成する。 ・地域福祉の担い手を中心とした支え合い体制を構築する。 ・生活困窮など複雑多様化した課題を抱える住民への支援を充実する。

基本施策の「成果」

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・結とぴあを中心に、関係機関・団体、民生委員・児童委員などが連携して、高齢者、障害者や子ども・子育てなど、複雑化する生活上の課題に応じたきめ細かな相談支援に取り組み、必要なサービスの提供に繋げることができた。 ・生活困窮者支援については、自立相談支援センター「ふらっと」において、家計改善に向けた指導や就労に向けた準備の支援などを行い、ひきこもりなど生活リズムが崩れている人の勤労意欲の向上に繋がった。 ・新型コロナウイルス感染拡大の状況の中、民生委員・児童委員の活動において、電話連絡による安否確認や生活状況の聴き取り、訪問による扉越しの会話や短い時間での相談など、感染拡大防止に配慮した、見守り、見回り活動を行った。
-----	--

改善点

・区長をはじめとする地区住民と、民生委員・児童委員の連携強化を図り、民生委員・児童委員の活動周知と活動環境の改善などを行う。
 ・地域活動の活性化や世代間交流の促進による地域づくりの取り組みを推進するとともに、介護保険制度による生活支援体制整備事業などの取り組みと連携し、地域で支え合う「地域共生社会」の実現に向けた体制づくりを進める。